

羅臼町議会だより

しれとこ



クズレ浜

平成19年

第**115**号

8月25日

議長あいさつ、新委員会構成	2～3
第2回定例議会、臨時議会	4～5
一般質問	6～11
行政視察	12～13

議長就任あいさつ

羅臼町議会議長

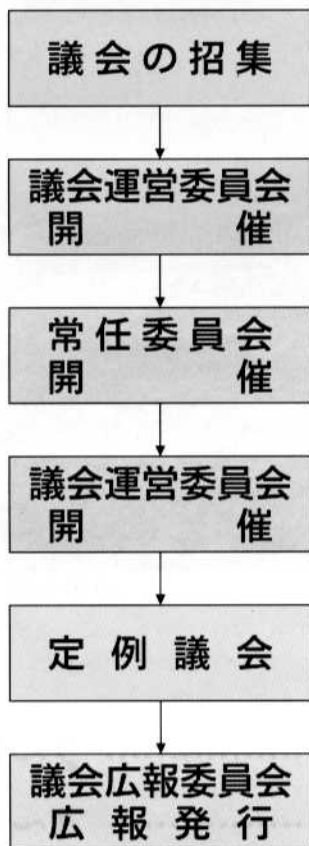
村山 修一

統一選挙後、初議会が五月九日招集され、議長選挙におきまして、不肖私が議長に選出され、誠に身に余る光栄でありますと同時に、責任の重大さを痛感し、身の引き締まる思いであります。浅学非才ではありますが、先輩議長から得た教訓を生かし、理事者や議員各位のご協力を戴き、誠実かつ、円滑な議会運営と住みよい郷土建設のため努力して参りたいと決意をあらたに致しております。何卒、議員各位をはじめ、町民皆様方の暖かいご指導とご協力をお願い申し上げます。議長就任のあいさつと致します。

議会のしくみ

議会構成及び定数	改選期前	改選期後
議員定数	16人	10人
常任委員会	3委員会	2委員会
委員定数	総務委員会 6人	総務民生委員会 5人
	民生委員会 5人	経済文教委員会 5人
	経済委員会 5人	
議会運営委員会	6人	4人
議会だより編集委員会	6人	4人

議会の流れ



※定例議会・臨時議会

定例議会は年四回、三月・六月・九月・十二月に行われる。臨時議会は必要に応じて開催され、ともに町長が招集する。

◎常任委員会

議会が一定の部門の事務に関する調査及び議案、陳情等の審査を行わせるため、条例で定め、常設する委員会で、羅臼町には、総務民生委員会と経済文教委員会の二つに構成されている。

◎議会運営委員会

円滑な議会運営を期するため、議会運営の全体について、協議し、意見調整を図る場として設置された委員会

◎議会だより編集委員会

議会の審議及び活動状況を住民に周知させるため、広報を発行する委員会

◎特別委員会

特定事件を審査するために設置された委員会で、必要に応じて設置される。

新 委員会構成 決定!!



副議長
松原 臣
54 歳
(当選 4 回)



議長
村山 修一
55 歳
(当選 4 回)



委員
松原 臣
54 歳
(当選 4 回)



委員
田中 良
53 歳
(当選 1 回)



委員
坂本 志郎
58 歳
(当選 2 回)



副委員長
湊屋 稔
43 歳
(当選 1 回)



委員長
鹿又 政義
56 歳
(当選 4 回)

総務民生常任委員会



委員
村山 修一
55 歳
(当選 4 回)



委員
高島 譲二
56 歳
(当選 1 回)



委員
山下 崧
68 歳
(当選 9 回)



副委員長
小野 哲也
40 歳
(当選 2 回)



委員長
佐藤 晶
57 歳
(当選 4 回)

経済文教常任委員会

議会議員
“ “ “
松原 臣
鹿又 政義
湊屋 稔

根室北部廃棄物処理広域連合

議会議員
“ “ “
村山 修一
松原 臣
佐藤 晶
鹿又 政義

根室北部消防事務組合

議会議員
“ “ “
村山 修一
松原 臣
鹿又 政義
湊屋 稔

根室北部衛生組合

委員 委員長 副委員長
佐藤 晶 鹿又 政義 田中 良 小野 哲也

議会運営委員会



第 2 回定例会議場

監事 副会長 会長
田中 小野 哲也 坂本 志郎 山下 崧

羅臼町議会議員会

平成19年
第2回

定例議会

一般会計

1,952万円

追加

総額 34億796万円

六月二十一日、二十二日、第二回定例議会が開かれた。議員の一般質問後、一般及び特別会計の補正予算、条例制定及び一部改正、人事案件、特別委員会の決議、意見書などすべて原案のとおり可決した。

補正予算(抜粋)

歳入

土木費補助金 三三六万円

障害者自立支援対策臨時特別交付金 一九八万円

水産業補助金 一〇万円

教育総務費委託金 九六万円

総務費寄付金 一八一万円

財政調整基金繰入金 八〇〇万円

前年度繰越金 三二九万円

歳出

◎総務費

知床・羅臼まちづくり基金積立金 一八一万円

町営住宅火災警報器設置工事 二五〇万円

耐震住宅促進計画策定委託料 四四二万円

◎民生費
羅臼町社会福祉協議会助成金 四〇万円

障害者福祉システム導入負担金 一九八万円

老人保健事業特別会計繰出金 一〇五万円

◎衛生費

医療技術者学資金助成金 八四万円

◎農林水産業費

高潮災害復旧費用利子補給 三七万円

◎土木費

道路・排水施設設置工事 一〇一万円

◎教育費

知円別小中学校閉校記念事業補助金 七〇万円

小学校英語活動等国際理解活動推進事業補助金 九六万円

中高一貫教育推進協議会(仮称)補助金 三四五万円

老人保健事業特別会計

981万円

6億3,407万円

歳入

医療費負担金前年度精算分(外四件) 九八一万円

歳出

後期高齢者医療制度創設準備事業負担金(外二件) 九八一万円

国民健康保険事業特別会計

249万円

14億374万円

歳入

後期高齢者医療制度創設準備事業補助金 二四九万円

歳出

後期高齢者医療制度創設準備事業負担金 二四九万円

条例改正

◎羅臼町副町長の定数を定める条例制定

◎羅臼町職員定数の一部改正

◎羅臼町特別職報酬審議会条例の一部改正

◎特別職の職員で非常勤のもの
の報酬及び費用弁償に関する
条例の一部改正

◎町長の給与及び旅費額並び
に支給条例の一部改正

◎羅臼町課設置条例制定

(※条例改正に関して詳しく
お知りになりたい方は、役場
総務課(電話87-2111)
までお問い合わせ下さい。)

決議

病院運営調査特別委員会設置
に関する決議

人事案件



副町長 鈴木日出男

昭和二十七年生、昭和四十五年
役場に入る。

建設課長、保健福祉課長、総
務課長、議会事務局長、総務
部長を歴任。

(任期)

平成十九年六月二十二日か
ら平成二十三年六月二十一日
まで

第二回 臨時議会

(平成十九年五月九日開催)

◎専決処分した
事件の承認(三件)

・畜産環境整備事業負担金
四十五万円

・積立金外
一〇、〇九三万円

・繰越明許費 一六四万円

◎条例改正

・羅臼町営住宅設置及び管
理に関する条例の一部改正

◎財産の取得

・塵芥収集車
一、二八六万円

第三回 臨時議会

(平成十九年
五月二十五日開催)

◎一般会計補正予算

・国民健康保険事業特別会計
繰出金 四、一六〇万円

◎国民健康保険事業
特別会計

・繰上充用金
七、八〇〇万円

◎条例改正

・町税条例の一部改正
・副町長を置かない条例の廃
止

◎人事案件

・固定資産評価審査委員会委
員の選任(三件)

・監査委員の選任



新規購入塵芥収集車

質

問

14件の質問が提出され町長・教育長の考えを問いました

羅臼町六月定例議会は六月二十一日・二十二日の二日間を会期と定め、六議員が十四件の一般質問を行った。各議員の質問要旨と答弁要旨をご紹介します。

国保病院を診療所化する素案が示されたが、その考え方を問う

坂本 志郎 議員

今、国は、国から支出する医療給付費を削減するために患者負担を増やし、病院の収入（診療報酬）を引き下げ羅臼のような赤字の自治体病院は、廃止か縮小・無床診療所化への計画を進めている。町長にはなんの責任もないのに、夜間救急外来が中止となり、入院ができなくなり、今度は病院を縮小して診療所にするという。

この町に暮らす住民にとって命と健康を守るための最も基本的な医療水準が低下し、医療を受ける権利が日々住民の手から奪われている。診療所への転換が避けられないとしても、夜間救急外来ができ、一定の病床数を持つ

有床の診療所が、住民の要望に最も合致した医療施設の姿と考える。同時に、この間、退院を余儀なくされた社会的入院（寝たきりなど）患者の対策も考えなければならぬ。

その意味では、「二十四時間対応の有床診療所」そして「高齢者対応施設」を一体的に検討すべきと考える。

町長

人的・財政的に「無床診療所化」を選択せざるを得ない

昨年の大幅な医療制度改正は、当病院においても診療報酬が激減し、不良債務が増加する要因となった。診療所転換については、医師・看護師の退職により現行の病院体制を維持することは非常に困難であり、これ以上の財政悪化を防止するために運営形態の転換を図り、不良債務の解消

が不可欠と判断した。有床・無床の決定はしていないが、無床化を選択せざるを得ない。

少子高齢化対策と障がい者対策の考え方を問う

坂本 志郎 議員

全国的に少子化対策の柱として、子供達の医療費補助年齢を拡大する自治体が増えていく。中には中学卒業まで医療費無料の自治体もある。

当町は北海道の基準と同じく六歳まで補助しているが、町の宝であるこの子供たちの医療費助成を少しずつでも拡大し、子育てに奮闘するお母さんの子育て支援を実施すべきである。又、高齢者施設や障がい者の施設（授産施設など）の設置が急がれるのではないだろうか。行政の果たすべき役割「安心して住み続けることができ

町長

可能な事から実施していきたい

乳幼児医療費補助の拡充については、今の段階では財源的に困難である。

又、高齢者や障がい者の方々に、授産施設等の設置については、障がい者等の活動を支援するセンターを設置し、支援を開始したところであり、今後においても利用者の方々の意向を十分に汲み取りながら、公共施設等を活用して可能なことから実施していきたいと考えている。

坂本議員による

その他の質問

- ◎ 町民の税負担の軽減対策について
- ◎ 財政健全化法について
- ◎ 観光資源の活用について

平成19年6月定例議会

一

般

国保病院の運営について

小野 哲也 議員

看護師が相次ぎ退職し、それが引金となり病院を縮小し診療所にして運営していこうという町長の考えのなかで、何点かの質問をします。

- 一、有床か無床か、無床であればその後の対応をどうするのか？
- 二、民間活力を含めた、グループホームへの具体的な対応？

三、病院としての民営化への可能性

四、運営も含めた上での病院の広域化

町長

縮小せざるを得ない！

財政の問題やマンパワーの問題、その他様々な要因がありますが、その上で、縮小せざるを得ないと町長として認識している。

一、有床は非常に困難であり、救急は現在と同じように時間外の対応はできない。

二、グループホームは民間活動を公募の形で導入し、町内に設置をしたい。形態は2ユニット、十八名を予定、町有地を必要ならば割当てる。交付金も補助予定であり、平成二十年五月頃には1ユニットだけでも運営をしていく。

きたい。

三、病院の民営化については、情報は情報収集に努め、条件等が整えば積極的に検討していく。

四、広域化については、国・道も推進しており、私自身道の自治体病院等広域化検討分科会の一員であり、これまでの経緯も検証しながら積極的に検討・協議していく。



国保病院



福寿園

国保病院の運営について

高島 讓二 議員

現在、看護師不足だとして病院は夜間、休日の救急医療を停止した状態です。この事は、生命に係わる問題であり町民の不安は大きい。救急医療体制を完備する事が町民の望む最優先事項である。

町長は行政執行方針で病院を診療所にせざるを得ないと述べているが診療所になったとしても夜間、休日の救急医療は行なうつもりか。また、今後の医師、看護師をどのように確保、補充していくのか。救急医療のため高規格救急車を配備するとの事だが、それだけで大丈夫なのか。更に、病院の収入増をどのように計っていくのか。病院改築を推進するとの事だが、財政難だというのに財源は。福祉施設との複合活用は考えているのか。短期間で看護師八名が退職する事は異常な事であり、管理或いはシステムに問題があるのではないか。

町長

救急対応は困難

診療所にした場合の休日、夜間の救急対応は医師、看護師の問題があり困難である。

また、関係機関と連携し、迅速な対応が出来るよう検討する。医師、看護師の確保は難しいが最大限努力する。

収入増については望めないが支出の抑制、訪問診療の充実等で収益性を高める。福祉施設との併用は建物老朽化、投資効果を考えた場合困難である。病院改築については、平成二十三年までに改築をめざす。看護師退職の件は慰留につとめたが自己都合、プライベートに係る事なので御理解頂きたい。

まちづくりについて

高島 讓二 議員

①「あしたへの希望をつなぐまちづくり」「協働のまちづくり」

くりの強力な推進」の内容について具体的に。

②いま、地球温暖化問題は世界的に強く関心を持たれています。来年の「洞爺湖サミット」においても、この問題がメインテーマになります。そこで提案ですが本町は、漁業、観光と世界自然遺産「知床」の自然と密接な関係にある事から、いち早く「地球環境保全宣言の町」として国内外に向け発信し、地球環境、自然環境保全をテーマとした、まちづくりを進める事を提案します。

町長

環境保全をテーマとしたまちづくりは提案として受けとめる。

①については平成十七年度の自立プランに示したとおり町民一人ひとりが地域の課題を積極的に解決して行く姿勢と行動を期待する。

②の環境保全をテーマにしたまちづくりについては、水産、観光とも知床の豊かな自然を基盤としており地球温暖化の



羅臼消防署 救急車

防止に幅広い取組みを進め、ミの分別、リサイクル、温暖化防止につながる取組みもある。「環境保全をテーマにしたまちづくり」は提案として受けとめ平成二十年を目処に環境基本計画を策定する。

町長

計画の見直しをしなければならぬ

十名の自立プラン評価委員会よりプランの進捗状況を定期的に監視し評価提言は概ね良好な評価を頂いている。交付税削減の見通しであり、自立プラン、第六期総合計画を見直ししなければならない。近々の連結決算はきびしい状況にある。

行財政改革について

高島 讓二 議員

「自立プラン」により取組みが進められているが、進捗状況について。きびしい財政



羅臼町の病院は どうなるの

山下 崧議員

病院問題で、医者も去り救急の火も消えこのままではこの町に住めなくなる。町は入院ベッドの無い診療所にすると言われているが自治体病院の責務である政策医療が充分に行われているのか経営実態の検証をすれば経営は健全であるはずである。標津町は入院ベッド三十五床、看護師二十九名、医師は四名体制で住民の生命の安全を図っているのにどうして羅臼町と違うのか。

町長

生命の安全を守る 方策を構築する

この度の、看護師退職は想定外で補充は困難である。マンパワーの確保は困難である事と財政的にも厳しいが、住民の安全と生命を守る責務があり、病院の果たすべき役割は大きいが診療所にせざるを得ない。今後は民間医療機関の誘致や広域医療システムの

方策を検討。診療所への転換は町民に不安があると思われるが生命の安全を守る方策を構築する様努めていく。

このままだと町が 危ない

山下 崧議員

羅臼町は道内市町村の財政非常事態宣言によると、ワースト九に相当すると言われるが、赤字予算は不健全ではあるまいがこのままいくと国の管理下で歳出削減を迫られ財政再建団体になりかねない。真の改革を目指し町民の為の政治を行うべきである。

町長

国と道に対し特別 財政支援を

連結実質赤字比率は全道九番目で間違いなく、どのくらいで財政再生団体とするか、財政再生団体であれば、不良債務の解消に当り、国と道に対し特別財政支援を訴えていく。現在も財政健全化に努力してますが更なる踏み込みが必要で。

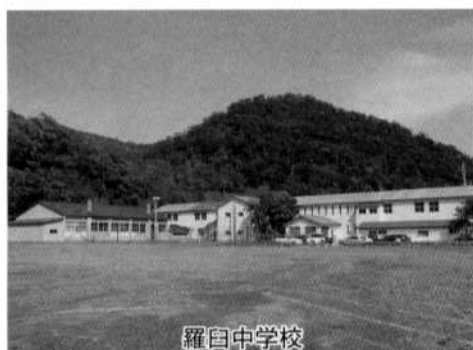
学校の適正配置と 跡地の利用

山下 崧議員

「生徒数は減少の一途で、学級編成に苦しみ、学力定着、集団生活への適応力の不安があり、社会性、協調性の豊かな心の子供の育成を図る為にも又、新しい学力観に立つ学校教育内容の充実の為に条件整備が時代の要請である。又跡地の利活用の問題と費用等効果について。

教育長 検討会を設置し、 地域の 活性化を促進

小学校については、統合年次は平成二十年もしくは二十一年に、中学校は二十年統合する計画。中学校の建築については、平成二十三年の後半から平成二十七年に位置づけられている。跡地利用については具体的に決まっていない。今後「○○地域づくり検討会」(仮称)等を設置し、地域の活性化を促進したい。費用等効果については、現状では老朽化に伴う維持補修費が毎年発生し、統合をしなければ、将来的に財政を圧迫すると思われる。



羅臼中学校



春松中学校

**国の制度利用をサ
ポートして活力あ
るまちづくりを**

湊屋 稔 議員

羅臼町の町民や企業は「協働のまちづくりを強力に推進」という中で自主自立を求められている。現在、国や道には地域活性化や起業家を奨励し雇用の増大を目的とした施策や制度があります。しかし情報がとぼしかったり、申請が複雑で難しかったりします。そのような情報を整理し、伝え、サポートすることで団体の地域活動が活発になったり、企業が新規事業へ挑戦したり、若者のチャレンジ精神を促進し、地域の活性化や雇用の確保につながると考えます。

町が大変だ、厳しいからあれもこれも我慢しなければならぬといった環境の中では芽生えづらい将来への希望や夢を途絶えさせることのないよう町民の前向きな取り組みをサポートするための情報収集や窓口の充実を図っていくことが重要と考えますが町長はいかがでしょう。

町長

**熱意あふれる地域
活動を積極的に支
援**

現在、国、道の支援施策や制度については、総務企画財政課で調整を図って活用について奨励しております。必要な事業には書類申請の手続きも含め支援をしておりますが町内全ての団体、個人の動きを捉えることは難しい状況です。自立プランにも示しておりますが、事業の廃止や縮小の視点だけで捉えるのではなく町民が主体的に取り組み、まちづくりに熱意あふれる活動や地域の課題を解決するための活動は積極的に支援して参りたいと考えております。

議員のご指摘のとおり病院の現状を説明し、方向性をご理解いただくために説明会等の開催が必要であることは認識いたしております。

**現状をしっかりと伝
えることで町民の
不安解消を**

湊屋 稔 議員

病院問題は、町民の生命に関わることであるから今後できる限り早い時期に説明会を

開催し、その後も体制や状況が変わったらその都度、何らかの方法で情報を伝えることを望みます。病院の運営を検討することも急務ではありませんが、その間不安を抱えている町民に対してもしっかりと情報を伝え、共有し理解して協力いただけるよう努力すべきと考えますが、いかがですか。

町長

**7月中旬に住民説明
会を実施**

議員のご指摘のとおり病院の現状を説明し、方向性をご理解いただくために説明会等の開催が必要であることは認識いたしております。

今月中に二回目の「羅臼町病院等運営町民検討委員会」を予定しておりますので、説明会開催の方法等について相談申し上げます。七月中に住民説明会を実施してまいりたいと考えております。



説明会に集った地域住民

**年金問題の町民へ
の対応は？**

湊屋 稔 議員

全国で大きな問題になっている年金ですが、町民の不安を少しでも解決するための対応を望みます。羅臼町での年金保険料の納付記録はどうなっているのか。不安を抱える町民への対応はどのようにしていくのかお聞かせ下さい。

町長

**羅臼町を会場に年
金相談窓口を開設**

羅臼町における国民年金保険料の納付記録は、社会保険庁へ移行する平成十四年三月まで電算化したデータにより管理しております。

今後は釧路社会保険事務所が7月中旬に羅臼町を会場に相談窓口を開設すると聞いております。今後におきましても町民の皆さんが安心して納付できるよう努力して参ります。



飛仁帯小学校



知円別小中学校

学校適正配置計画について

田中 良 議員

学校適正配置計画により平成十九年度知円別小中学校が廃校となるが、廃校後の校舎の利用方法や児童、生徒の通学手段などについて地域や保護者との話し合いはどうなっているのか。また、統合する他の小中学校に関わる地域・保護者との協議の進み具合と羅臼・春松中学校の校舎の使用限度をお伺い致します。

教育長

地域・保護者との協議

知円別小中学校の統合に關しましては、今年度に入り二回の「諸条件整備に向けた協議」と一回の「PTA、町内会役員との協議」を実施しております。(5/26・6/9・6/12)

ここで、統合後の「通学手段」につきましては、地域よりスクールバス運行の要望がありました。平成十五年四月一日から「町内循環百円バ

ス」を導入した経緯もあり、このバスを利用すべくお願いしているところであります。

「統合予定の、他の小・中学校に関わる地域・保護者との協議の進み具合」については、説明会等を幾度となく開催させていただきましたが、峯浜町地区・海岸町地区の方々からは「学校存置」との回答をいただいているが、「児童・生徒の集団生活を通して社会性などを育む教育環境を整備すること」が新しい時代に向けた学校教育への要請と考えるところであり、今後、教育委員会でも計画書を策定し、地域住民の方々には統合に向けたご理解とご協力をいただくこととしております。

一般質問と答弁は要約されています

議会だよりでは、質問、答弁の内容を要約して載せています。質問、答弁の全文について詳しくお知りになりたい方は、町役場総務課までお問い合わせ下さい。

町政はあなたのために!! 議会を傍聴してみませんか。

町議会の定例会は、年4回(3・6・9・12月)開きます。
町議会の臨時会は、必要に応じて随時開きます。



植別小中学校

意見書

「道路整備に関する意見書」

提出者 佐藤 晶 議員

道路は道民生活や社会活動を支える最も基本的インフラであり体系的かつ計画的に推進されるべきである。次の事項を強く要望する。

- ①道路整備を計画的、着実に進めるため必要な財源を確保すること。
- ②中期計画を作成するため地域間格差への対応、安全、安心の確保、道民ニーズを幅広くくみ取ること。
- ③高規格幹線道路について、現在事業中の区間の早期供用、「当面着工しない」とされた区間の早期の事業化。
- ④適時適切な修繕等による効率的な道路ストック管理。

行政視察報告

(後志管内積丹町)

高島 讓 二 議員

今回、我々の行政視察を快諾していただいた積丹町は明治時代、鯉の千石場所として栄えソーラン節発祥の地である。アイヌ語のシャクコタン(夏の村)が転訛してシャコタン(積丹)となり、昭和三十一年、美国町、入舸村、余別村が合併して積丹町が誕生した。(積丹町2001町勢要覧より参考)

入り組んだ地形から道路がなかなか開通せず昭和三十一年までは航路に頼った生活を余儀なくされ、まさに陸の孤島という本町と同じ境遇だったのである。

平成八年積丹半島周遊国道が開通し、本町のように行き止まりの町ではなくなったのだが、海岸沿いを縫うように走る国道は昔ながらの狭いトンネルが残っていて車のすれ違いに恐い所もある。しかし、きれいな景色が保たれ「日本の渚・百選」「北海道遺産」に指定され、周遊国道開通に伴い観光客は着実に増加し、輸送や生活道路としての機能もたかまった。他方、消費が都市部に流出し、地元商店街は厳しい状況のようである。

基幹産業は、漁業であり、平成十八年度総水揚量三、九七九トン、十五億四百万円。主にほっけ、いか、えび、うに等が主力であるがマグロ、ぶり等の水揚もある。近年、道のニシンプロジェクト事業に連動した稚魚放流事業などの育てる漁業の推進に取り組んでいる。

農業は酪農を柱に肉牛、畑作の振興を図っており、平成十八年度農業生産額六億四、五百万円となっている。

人口は平成十九年三月末、二、九一三人。一、三三八世帯で、ちょうど本町の半分ほどの人口と世帯数である。

今回、積丹町を行政視察の対象として選んだ理由は、昨年、医療運営を縮小した事。漁業が基幹産業で町の形態が似ている。半島先端の町であり交通の便が良くない。財政的に厳しい状況など本町にとって参考になるところが多いと思われるからである。

八月二日、我々一行は、積丹町の益子町長、岩本議長、診療所事務局長、企画課長と活発に意見を交わし予定の時

間を超える二時間半にわたって説明を受けた。

今回、行政視察の主な目的の病院(診療所)については、積丹町からいただいた資料に眼を通すと行財政改革の大きなウエイトを占めている。

昨年の平成十八年二月、臨時町議会にて入院等廃止条例を可決し、同年四月から入院、夜間救急、時間外診療の廃止、職員体制の見直しを行い現在、概要のとおり(次頁上)医師含む七人体制で無床の診療所として運営。診療時間内であれば救急も対応。

救急対応は、救急救命士十三名、救急車一台(北後志組合全体では五台)

隣の古平町の診療所までの所要時間は十分、余市町まで二十五分、救急センターがある小樽まで一時間、更に、札幌からドクターヘリの対応も可能な地域であり、すでに経験済みである。近隣医療機関への協力要請は隣の古平町、余市町へは、町長、医師ともに救急対応のお願いに行ったとの事である。また、広報誌には、その月の余市町の救急当番病院の案内も掲載している。





◎積丹町立国保診療所の概要

創立 昭和四二年九月 創立当初より十九床の入院可能、救急対応の診療所。

建物 昭和五九年 築二十三年経過

運営体制(平成十六年四月一日時点) ↓ (平成十九年四月一日以降現在)

医師	2名(正職)	↓	1名(嘱託)
看護師	8名(〃)	↓	2名(正職)
薬局	1名(〃)	↓	廃止
介護士	1名(〃)	↓	廃止
事務局長	1名(〃)	↓	1名(正職)
受付・事務	1名(〃)	↓	0名
介護職・受付	11名(臨時)	↓	2名(臨時)
清掃員	1名(委託)	↓	1名(委託)
給食	2名(臨時)	↓	廃止
環境整備	1名(臨時)	↓	廃止
夜間警備	2名(委託)	↓	廃止

◎本町とは、救急体制について地理的な問題で大きな違いがある。

無床化による介護患者、一般入院患者への対応は、事前

に患者、及び家族と数カ月前から充分に話し合い、受入先の医療機関と医師との協議により決定し、転院時には全くトラブルが無かった。(現在、積丹町には、福祉、介護施設が無い)

医師の確保については、町長自ら地域医療に理解ある医師を探し、決定した時点で今までの二人の医師に辞していただいた。また、町民には、医師の給料もすべて開示し、理解を求めた。

前述の積丹町が行った診療体制の見直しにより財政的には人件費等の大幅なカットが可能となり、一般会計からの持ち出しが一、六〇〇万円(予定)程度となり財政負担がかなり軽減される事は確かである。一方、今まで、医師が頻繁に変わり患者との信頼関係が築かれていない事により、他の医療機関へ流出している患者を一人でも多く来て頂くために、診療所スタッフ

の信頼回復に努力しなければならぬ。と語っていた。

また、地域格差をなくすため週2回無料バスを運行している。

今回の説明で、大変印象深かった事は町長就任直後の平成十六年から現在まで春と秋の年二回、三地区において住民との懇談会を開催し、行政(診療所事業含む)について住民に対し、充分な理解を求めている点である。診療所事業については更に三回行っている。広報誌に予算、決算その他重要な案件は掲載し、住民に対し説明したとしているが、数値等を示しても誌面上では理解され難い、直接の対話によって財政状態をすべて情報開示(診療所事業も含む)し、説明しなければ住民には理解されないとの確信をもちいた。

羅臼町の議会では、病院運営調査特別委員会を設置し、七月二十四日、八月十日と二回開催し、行政視察報告と忌憚のない活発な意見を交わした。また、傍聴にこられた方もいた。

特別委員会は九月の定例議会まで数回開催の予定である。九月の定例議会で委員会としての意見をまとめ中間報告を行う予定である。

なお、特別委員会のメンバーは議長を除く9名で運営。委員長、松原 臣議員。

お持ちである。

最近、町民の方から行政について感心を持ち、逆に心配される。望むところであり、このようになるまでには、懇談会、説明会を続け三年を要したとの事である。今では、積丹町が、もし、夕張のような状態になったとしても住民は理解をしてくれる。住民がパニック状態になる事はないとの確信を得るまでになったとの事である。

益子町長は町長就任から行政改革ばかりで、事業をやらないのか?と皆さんから云われるが、やりたくても財政的に何もない状態だと嘆いていた。しかし、執行者として一番大事な信頼を町民および議会から得ていると私は感じた。

議会の動き

3月

- 1日 全員協議会・議会運営委員会
- 2日 衛生組合（標津町）消防事務組合（中標津町）
広域連合（中標津町）議会
- 5日 経済常任委員会
- 6日 民生常任委員会
- 7日 総務常任委員会・議会運営委員会
- 9日 第1回定例議会（～13日）・全員協議会
- 27日 管内4町の自治を考える会 議長

4月

- 10日 羅臼高校入学式 議長
- 22日 町長・町議選挙
- 23日 当選証書授与
- 26日 商工会通常総会 議長

5月

- 1日 議員協議会
- 8日 全員協議会
- 9日 第2回臨時議会
- 11日 管内議長会臨時総会（標津町）
観光協会通常総会 議長
- 17日 管内1市4町旅館組合連絡協議会総会 議長
- 20日 東京らうす会総会 議長
- 21日 さけ稚魚放流式 副議長
- 22日 議会運営委員会
- 23日 経済文教常任委員会・総務民生常任委員会
- 25日 全員協議会・第3回臨時議会

6月

- 1日 北海道横断自動車道路釧路・根室間建設促進
期成会総会（釧路市）議長
- 2日 連合町内会総会 議長
- 4日 管内議長会（中標津町）
- 6日 議員懇談会
- 7日 衛生組合（標津町）消防事務組合（中標津町）
広域連合（中標津町）議会
- 8日 管内議会議員会パークゴルフ大会（別海町）
地域高規格道路釧路中標津間道路整備促進期
成会総会（中標津町）副議長
退職手当組合議会（札幌市）議長
- 11日 根室地方総合開発期成会定期総会外4（根室
市）議長
- 12日 道町村議会議長会定期総会（札幌市）
建設業安全大会 副議長
- 15日 議会運営委員会
- 18日 経済文教常任委員会
- 19日 総務民生常任委員会
- 21日 第2回定例議会（～22日）
- 24日 全国植樹祭（苫小牧市）議長
- 28日 静岡県御殿場市議会行政視察来町

7月

- 9日 議会だより編集委員会（18日・23日）
- 17日 病院運営調査特別委員会
- 24日 議員懇談会



議会だより編集特別委員会

委 田 中 良	副 委員 長 小 野 哲 也	委 員 長 高 島 讓 二	委 員 湊 屋 稔
------------------	----------------------------------	---------------------------------	-----------------------

委員の抱負

○生活するのが大変な時代になりました。生きて行くことが大変です。私の役目はみなさんの意見を町政に反映させる事です。それを使命に置く今の全議員の活動を、わかりやすく紙面としてみなさんにお伝えしていく事に議会だより編集委員として、精一杯努力させて頂きたいと思っています。

小野委員

○町民の皆さんに議会の活動や内容をわかりやすくお伝え

田中委員

○議会だよりを通じて、今、町民の皆さんに必要な情報公開に努め、議会を身近に感じられるような紙面づくりを心掛けて行こうと思います。ご意見、ご希望がありましたら、是非お聞かせ下さい。

湊屋委員

できるような紙面を目指してまいります。

この議会だよりを一人でも多くの方に見てもらい議会を身近に感じていただけることを願って頑張ります。

編集を終えて



今春行われた町議会議員選挙から議員定数が十六から十に減数となりました。

本誌3ページに示したとおり議長、副議長をはじめ各役員も決定し、常任委員会は三から二に統合となりました。

また、病院問題について特別委員会を設置し、議会は活発に活動しております。議会だよりをとおして議会の活動がわかりやすく且つ読みやすい紙面づくりを心がけてまいります。ご意見をお寄せください。

高島